

こども計画「施策評価」修正に関する説明資料

1 はじめに

この度、子ども・子育て会議にて既に諮られた「施策評価」の内容について、一部の項目において大幅な修正を行い、改めて審議をお願いする運びとなりました。修正箇所が多く、委員の皆さまには多大なるご迷惑をおかけすることを深くお詫び申し上げます。

今回の修正は、『施策の展開』の策定過程で明らかになった課題を反映し、計画全体の整合性と表現の明確さを向上させるためです。計画策定過程において、新たな課題や方向性について再検討が必要となり、その結果として、施策評価の内容に修正が生じました。

これらの修正により、計画全体の精度を高め、より実効性の高いものとなることを目指しています。

2 各修正点の具体的な説明

<修正1>

(2) 地域における子育ての支援、「課題」(こども計画 32 ページ)

修正前	修正後
母親支援を中心としてきましたが、地域全体で子育て支援をしていくという観点から、 <u>今後は父親支援の視点も取り入れた事業の検討が必要です。</u>	母親支援を中心としてきましたが、地域全体で子育て支援をしていくという観点から、 <u>今後は、地域資源の活用と開発、連携が必要です。</u>

修正の意図と理由：

現状の記述では「父親支援の視点も取り入れた事業の検討」を課題としていますが、地域全体で子育て支援を行うためには、父親支援だけでなく、地域資源の活用と開発、そして関係機関との連携が不可欠です。

地域には、子育て支援に貢献できる様々な資源が存在します。これらの資源を効果的に活用し、連携を強化することで、より多様なニーズに対応した子育て支援サービスを提供することが可能になります。

そこで、課題の Scope を広げ、より包括的な視点から「地域資源の活用と開発、連携」を課題として設定することで、今後の地域における子育て支援の更なる充実を図ります。

<修正 2>

(3) こどもと親の健康づくり、①妊娠・出産の支援（こども計画 33 ページ）

修正前	修正後
・妊娠健康診査（14 回分費用助成）と母子健康手帳交付（保健指導等実施）を実施しました。母子健康手帳交付は、令和 5 年度（2023 年度）には WEB 予約の導入と、事前の届出書やアンケートの WEB 入力も導入しました。また、母親の育児支援とメンタル支援に寄与する産後ケア事業を実施しました。	・妊娠の届出と同時に母子健康手帳を交付し、助産師等が、妊娠期の過ごし方や妊産婦を支援する制度等、出産にむけた保健指導を実施しました。母子健康手帳交付は、令和 5 年度（2023 年度）には WEB 予約の導入と、事前の届出書やアンケートの WEB 入力も導入しました。 ・妊婦健康診査（14 回分費用助成）を実施しました。
・妊産婦及び乳幼児の家庭訪問を継続して実施し、令和 5 年度（2023 年度）からは伴走型支援と出産子育て応援交付金を一体的に実施しました。	・保健師等が妊産婦及び乳幼児に対する面談、電話、家庭訪問等による保健指導を実施しました。また、令和 5 年度（2023 年度）からは、出産や子育てに係る経済的負担の軽減を目的とした出産子育て応援ギフト（10 万円の現金給付）を開始しました。
	・母親の育児支援とメンタル支援に寄与する産後ケア事業を実施しました。
・乳幼児の事故防止啓発のため、事故防止に関する資料の配布と乳幼児健診時に問診による確認を実施しました。	（「②こどもの健康の確保」へ移動）

修正の意図と理由：

妊娠・出産の支援に関する情報を整理し、より分かりやすく、時系列に沿った流れで示すために修正を行いました。

具体的には、現状の記述では、様々な支援策が混在して記述されており、それぞれの関連性や時系列での流れが分かりにくい状態でした。

そこで、修正後の記述では、まず妊娠の届出と同時に交付される母子健康手帳と、その際の保健指導について説明し、次に妊婦健康診査、そして産後から乳幼児期にかけての保健指導と出産子育て応援ギフト、最後に産後ケアについて説明するという流れに整理しました。これにより、妊娠・出産に関する支援策が時系列に沿って整理され、全体像を把握しやすくなりました。

また、「伴走型支援」のような抽象的な表現を避け、「出産子育て応援ギフト（10万円の現金給付）」という具体的な支援策の名称を明記することで、支援内容の理解を促進しています。「乳幼児の事故防止啓発」については、「②こどもの健康の確保」に移動しました。

<修正3>

(3) こどもと親の健康づくり、②こどもの健康の確保（こども計画 33 ページ）

修正前	修正後
・乳幼児健診や発達健診を実施しました。また、臨床心理士による心理相談や集いの広場での子育て相談を実施しました。これらの取り組みから継続支援が必要であるこどもに対しては保護者の了承のもと個別園訪問や個別相談に応じてきました。	・乳幼児の健康や、発育発達の把握をするための乳幼児健診を実施しました。また、こどもだけでなく親の健康づくりの観点から、保護者の体調も把握し必要に応じて健康診査の受診勧奨を行いました。 ・子育てに関する不安や悩みの解消を図るため、子育てひろば（育児相談）を実施しました。 ・臨床心理士や療育相談員によるこどもの発達に関する相談（心理相談や療育相談）を実施しました。また、保育所等と連携し、療育相談員が保育所等を訪問し支援者や保護者に対し、個別に助言を行う園訪問を実施しました。
・予防接種、フッ化物塗布、フッ化物洗口を実施。予防接種は計画通り実施し、WEB申請による予診票発行とアプリによる接種スケジュール管理を導入しました。フッ化物塗布は、1歳6か月児と3歳児健診で実施しました。フッ化物洗口は保育園・幼稚園で概ね実施、小中学校でも実施しました。	・感染症の予防のため予防接種の公費負担を実施しました。 ・う歯（むし歯）の予防のため、幼児健診において希望者にフッ化物塗布、保育所・幼稚園、小学校等において、フッ化物洗口を実施しました。
	・乳幼児の事故防止のため、乳幼児健診や健康教育の機会を通じ、事故防止の啓発を行いました。

修正の意図と理由：

修正前は、乳幼児健診、発達健診、心理相談、つどいの広場での子育て相談、個別園訪問、個別相談、予防接種、フッ化物塗布、フッ化物洗口と、多岐にわたる取り組みが個別に列挙されており、それぞれの関連性や全体像が把握しづらい記述でした。加えて、事故防止啓発については「①妊娠・出産の支援」に記載されていましたが、他の項目との関連性が薄く、記述の配置として適切ではありませんでした。

そこで、これらの取り組みを整理し、関連する内容をまとめて、乳幼児健診と保護者の健康把握、子育てひろば（育児相談）、心理相談・療育相談と園訪問、予防接種、フッ化物塗布とフッ化物洗口、事故防止啓発の6つの項目に再構成しました。

① 乳幼児健診と保護者の健康把握

乳幼児健診と発達健診を統合し、親の健康状態の把握と健康診査の受診勧奨も合わせて実施していることを明記しました。

② 子育てひろば（育児相談）

修正前の記述では、つどいの広場の目的や内容が不明確でした。そこで、「子育てに関する不安や悩みの解消を図るため」と目的を示し、包括的な子育て支援の場であることを明確にしました。

③ 心理相談・療育相談と園訪問

臨床心理士による心理相談、個別園訪問、個別相談を統合し、療育相談員による園訪問と個別助言を含めて、子どもの発達に関する相談支援の内容を分かりやすく整理しました。

④ 予防接種

予防接種の公費負担による感染症予防という目的を明確にしました。Web 申請やアプリ導入といった具体的な手段ではなく、目的を強調することで、施策の本質を分かりやすく伝えています。

⑤ フッ化物塗布とフッ化物洗口

フッ化物塗布とフッ化物洗口をまとめて説明し、実施場所や対象年齢を明確にしました。

⑥ 事故防止啓発

元々は「①妊娠・出産の支援」に記載されていましたが、乳幼児健診や健康教育など、こどもの健康確保に関連する機会に実施されていることから、この項目に移動しました。乳幼児健診や健康教育の機会を通じた事故防止啓発の実施について明記することで、事故防止対策をより効果的に推進できると考えています。

これらの修正により、こどもの健康の確保に関する取り組みの全体像とそれぞれの具体的な内容がより明確になり、計画の理解促進に繋がると考えています。

<修正4>

(3) こどもと親の健康づくり、③健康教育の推進（こども計画 33 ページ）

修正前	修正後
・食育歯科教室やなどの料理教室（親子クッキング、手作り離乳食教室）を実施し、健康教育の推進を図りました。	・保育所等において、食育・歯科に関する教室を実施しました。また、親子クッキング教室、手づくり離乳食教室を実施し、食育の推進を図りました。
・子育てに困難を抱える保護者等を対象に相談支援や小集団での遊びを提供するつくしんぼ教室（月1回開催）は、令和4年度（2022年度）から再開し、1歳6か月児検診後のフォローアップも兼ねて子育て支援を実施しました。	・子育てに不安や悩みを抱える保護者に対し、親子で参加するつくしんぼ教室（遊びの教室）を実施し、親子遊びの提供や、療育相談員による助言を行いました。

修正の意図と理由：

修正前は、食育歯科教室、料理教室（親子クッキング、手作り離乳食教室）、つくしんぼ教室といった具体的な教室名が挙げられていました。修正後は、これらの教室を目的別に整理し、以下の2点にまとめました。

① 食育・歯科教室と料理教室

修正前は教室の種類を列挙していましたが、修正後は「食育の推進」という目的を明確に示し、そのために実施した教室を具体例として挙げる形に変更しました。これにより、健康教育における食育の重要性を強調しました。

② つくしんぼ教室

修正前は、対象となる保護者や教室の内容がやや不明瞭でしたが、修正後は「子育てに不安や悩みを抱える保護者」を対象とし、「親子遊びの提供」と「療育相談員による助言」という具体的な内容を明示することで、教室の目的と内容がより明確に伝わるようにしました。

<修正5>

(3) こどもと親の健康づくり、「課題」(こども計画 33 ページ)

修正前	修正後
新型コロナウイルスの感染拡大により中止や事業方法を変更した取り組みもあり、今後の事業展開を検討や各事業の周知を図ることが必要です。	身近な地域で医療や予防接種、乳幼児健診等の保健医療サービスを受けることができる体制の維持と、保護者が子育てに悩み、孤立することのないよう、また、こどもの成長発達に応じたきめ細やかな相談支援を提供するため、地域の関係機関と適切に連携し相談支援体制を充実させていくことが必要です。さらに、所得に関わらず、等しく妊娠・出産を安心して迎えることのできる支援が必要です。

修正の意図と理由：

修正前は、新型コロナウイルスの影響に焦点を当てた記述となっています。修正後は大幅に変更をしていますが、この変更には、次の意図があります。

① 新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却

新型コロナウイルス感染症の影響は依然として残っているものの、徐々に日常を取り戻しつつある中で、課題を新型コロナウイルス感染症のみに限定するのではなく、より長期的な視点で課題を捉える必要があると考えました。

② 保健医療サービス提供体制の維持

地域で必要な保健医療サービスを継続的に提供できる体制を維持することが重要であることを明確に示しました。

③ 相談支援体制の充実

子育てに悩む保護者への相談支援体制の充実の必要性を強調しました。「孤立することのないよう」という記述を追加することで、相談支援の重要性をより強く訴えています。また、「地域の関係機関と適切に連携し」という記述を追加することで、地域全体で子育てを支援していく必要性を強調しています。

④ 経済的支援の必要性

「所得に関わらず、等しく妊娠・出産を安心して迎えることのできる支援」の必要性を明記しました。これは、経済的な理由で妊娠・出産に不安を抱える家庭への支援の重要性を強調するものです。

3 修正による効果

今回の修正により、以下の効果が期待されます。

(1) 計画の整合性向上

施策評価と施策展開との整合性を高めることで、計画全体の一貫性が向上し、より実効性の高い計画の策定に繋がります。

(2) 表現の明確化

曖昧な表現を避け、具体的な記述にすることで、計画内容の理解度が向上し、関係者間での共通認識を形成しやすくなります。